

ISACA® (情報システムコントロール協会) 認定講座  
公認情報システム監査人

CISA® Program

CISA

**Abitus**

※Abitusとはラテン語で「出発」を意味します。

ISACA®(情報システムコントロール協会) 認定講座

# 公認情報システム監査人 CISA® Program

- P.4 CISA®とは
- P.6 合格実績と合格者の声
- P.8 CISA®試験について
- P.11 アビタスの教材とサポート
- P.18 申し込みについて
- P.19 よくあるご質問

# CISA® (公認情報システム監査人)とは

情報システム監査とは、情報システムの信頼性・安全性・効率性を検証し、評価することです。

ビジネス環境における情報システムの急速な普及によって、情報システムは企業の目標達成と存続に不可欠な要素として、ビジネスの根幹を支えています。

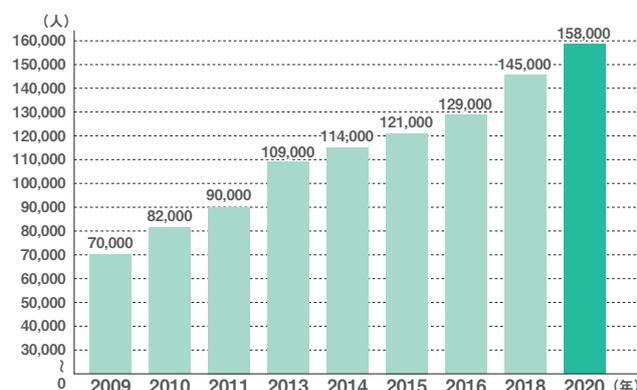
それは同時に、情報システムが様々なリスクに晒されていることを意味します。例えば、情報システム運用コストの肥大化、システム障害、情報の漏えいなどです。企業における相次ぐ個人情報の流失事件は、当該企業や社会に与える影響の大きさから、システム監査の重要性を認識させる契機となっています。

上記のリスクに対し、情報システム監査人は、ただチェックシートにマークをしていくだけでは職責を果たせません。経営者と同じ目線に立って監査し、経営者に改善を促す役目が求められています。

## 能力と専門性を証明する国際資格

公認情報システム監査人を意味するCISA®とは、「Certified Information Systems Auditor」の略称です。情報システム監査、セキュリティ、コントロールに関する指導的な役割を担うISACA®(情報システムコントロール協会)が認定する国際的な資格です。

情報システム監査人の能力と専門性を証明することを目的に、1978年より開始されたCISA®資格認定試験は、約80の国で実施され、2022年時点で累計177,000名以上の資格認定者がいます。



CISA® 累計認定者の推移

## ISACA® (Information Systems Audit and Control Association : 情報システムコントロール協会)

1976年にアメリカで設立。情報システム監査基準の作成、CISA®(公認情報システム監査人)などの資格認定を行い、ITガバナンス・コントロール・セキュリティおよび情報システム監査のための世界的な指導的役割を担う組織。現在、全世界188か国255支部で170,000名以上の会員を擁している。日本には東京・大阪・名古屋・福岡に支部があり、会員数は約3,700人。

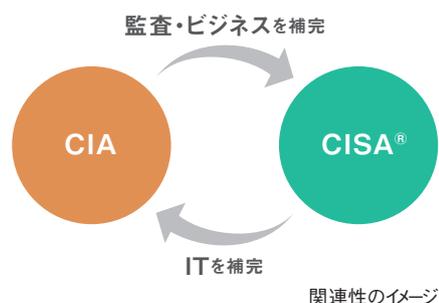
### column

#### CIA (公認内部監査人) と CISA® の関連性とは？

監査関連の資格として、CIA (公認内部監査人) をご存知の方は多いでしょう。2つの資格の関連性をご紹介します。

CIAでは、「監査+ビジネス」を主に学習します。ビジネスの一部にITも含まれますが、最低限の用語の理解にとどまりますので、ITに関わるリスクおよび監査の着眼点について深くは触れられていません。一方CISA®では、CIAで不足する「ITに係るリスクおよび監査の着眼点」を中心に学習します。ただし、監査の学習量はCIAの方が多いです。また会計・ファイナンス・経営戦略についてはCISA®では取り扱いません。それぞれの資格で不足する部分を補完し合うのが、ダブルライセンスの魅力です。

CISA®取得を目指している方は、その後CIAの取得を、既にCIAを取得されている方は、CISA®の取得を推奨いたします。



## 情報システム監査の専門家として幅広く活躍

CISA<sup>®</sup>が日本国内で注目されるようになった契機は、2009年3月期より導入された「金融商品取引法(J-SOX)」です。導入以前は主に監査法人やコンサルティング会社に在籍する方がCISA<sup>®</sup>を取得されていましたが、導入後は事業会社の内部監査部門に在籍されている方の取得が増えました。内部監査業務を遂行する上でシステムやシステム監査に関する知識が不可欠であったためです。そして現在、リスク管理という観点から、情報システム部門やセキュリティ部門に在籍されている方の取得が増えています。

欧米においては、特にリスク管理の必要性が高い金融機関などを中心に、CISA<sup>®</sup>資格者が情報システム監査の専門家として幅広く活躍しています。今後日本においても、CISA<sup>®</sup>資格者の必要性が様々な業種でより一層高まることが予想されます。

### 事業会社の場合

内部監査部門  
情報システム部門  
セキュリティ部門  
コンプライアンス部門

### 監査法人の場合

IT監査部門  
リスク・マネジメント部門

### コンサルティング会社の場合

ITオペレーション  
セキュリティ  
コンプライアンス

### Message

## システム監査に要求されるレベルは高くなり、責任も大きく変化 ～CISA<sup>®</sup>の視点で企業経営をサポートする重要性～

「システム監査」という言葉を聞いたとき、どのように思われるでしょうか？

- ・ 監査は少数の専門家のための技術である
- ・ 私は別の部署(開発部門、運用担当など)なので関係が無い
- ・ 経営管理の立場なので報告だけ受ければ良い

などのご感想が多いかもしれません。実は私も米国企業でシステム総責任者をしていた頃、同じような思いでしたし、毎年やってくるシステム監査もほとんど気にしていませんでした。しかし2004年の米国SOX法の実施を受けてからは、要求されるレベルが非常に高くなり、責任も格段に大きくなったと痛感することが多くなりました。ちょうどその頃、内部と外部の監査人の多くがCISA<sup>®</sup>資格を持っていることを知り、同じ土俵で競争していくためにも、システム監査の方法論を学ぼうとCISA<sup>®</sup>を取得しました。実際、IT責任者また経営者として問題点の洗い出し・改善・提案等を行ううえで、CISA<sup>®</sup>として身に付けた監査の視点が大いに役立ってきたと実感しています。

近年、幾つかの企業がGRC(Governance Risk Compliance)の成熟度の低さから不祥事を起こしています。経営者・運用者・開発者が常に監査の視点を持ち、企業のGRCをモニターし評価することは企業の防

衛や発達に不可欠と言えます。

また、現代においてIT技術無しで運営できる事業体はほとんどありません。そのためIT以外の経営層の責任として、企業全体のガバナンス機構にIT分野を統合して行くことは必要不可欠となってきています。さらにITの進歩や通信ネットワークの拡張によって、事業の活動がよりグローバルになっていることから、事業体活動をグローバルな基準に準拠して監査・モニター・評価・改善する事は、ますます重要になってきています。

このような中、ISACA<sup>®</sup>が提供する資格については、世界約190カ国以上で14万人余りの有資格者の皆さまが活躍されており、支部も日本の4支部(東京・名古屋・大阪・福岡)を含む世界210都市以上で展開しています。その結果、世界中の多様な企業や政府関連組織でCISA<sup>®</sup>資格が広く認知され高い評価を受けております。

CISA<sup>®</sup>の受験をきっかけに、ぜひ体系的な知識を修得され、グローバルな人脈を築いてください。



五島 浩徳氏

CISA<sup>®</sup>、CGEIT<sup>®</sup>、CISM<sup>®</sup>、CRISC<sup>®</sup>、ABCP ISACA<sup>®</sup>  
東京支部2015-2017年度会長兼理事  
ファイブ・アイLLC ITコンサルティングパートナー  
Asia-Pacific CACS/ISRM 2014議長  
DRI Japan 理事

# 合格実績と合格者の声

## 合格実績

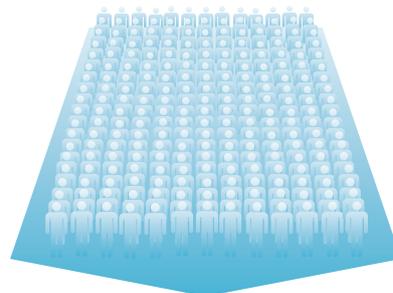
アビタスのCISA®合格者は

1,886名!

2007年4月に開講したアビタスのCISA®プログラム。  
開講以降、順調に合格者を輩出し続け、2025年2月時点で、  
累計合格者数1,886名に到達しました。

※当校CISA®受講生に実施したアンケート結果に基づいています。

2007年4月 CISA®プログラム開講



2025年2月時点 **1,886名**

CISA®試験のアビタス受講生累計合格者数

## 合格者の声

IT監査を体系的に学び自信を持って業務に臨めるように

### 仕事上で資格がプラスに作用

仕事でITの監査を担っていましたが、体系だった勉強をしたことはありませんでした。CISA®といううってつけの資格があることを知り、目指すことにしました。仕事でやっていたこと裏付ける知識を効率良く学ぶことができ、資格取得したことでさらに自信をもって仕事を進められるようになりました。社外の方と会う際には、資格を持っていることがプラスに作用することを期待していましたが、まさに期待しているとおりの効果がありました。

### 通学を選び強制的に勉強時間を確保

仕事をしていると、勉強時間を確保することが難しくなりますが、私の場合、通学することで強制的に勉強時間を取る方法を選びました。実際に、勉強にかかる時間は短縮されたと思っていますし、アビタスに通って良かったと思っています。効率よく学べて資格も取得することができました。

### CISA®の知識は監査をする上で必須

監査の実務で不足していた知識が補われ、より自信をもって仕事ができるようになりました。CISA®を持っていることで業務にプラスになったと実感しています。学習を通じて得た知識はITの監査をする上で欠かさないものですし、より自信をもって業務を進めることができます。CIAなど別の資格に向けて歩むきっかけにもなりました。社会人になって学習する機会を得られたこともとても良かったと思っています。

### 実務・試験対策などの情報を入手

普段の仕事があるので時間を確保することが課題でした。通学を選んだことで、結果的に勉強時間を確保できた点は良い判断だったと思っています。テキストに載っていることを分かりやすく教わることができましたし、監査の実務、試験対策などの情報を入手でき、毎回通うのが楽しかったです。



大手百貨店 内部監査部門  
IT監査チームリーダー

伏見 紳一さん

## 定期的にヘッドハンティングを受けています

### 【英語、会計、ITがこれから必須のスキル】

U.S.CPA(米国公認会計士)資格を取得したのち、ある雑誌に「英語、会計、ITがこれから必須のスキルになる」と書かれていたのを見てIT系の国際資格に興味を持ちました。経営コンサルという職業と最も親和性が高いのがCISA®だと判断しました。経営者目線で経営戦略とIT戦略との融合、ITの価値の最大化、ITリスクの最小化などを経営者に語る上で、CISA®は最も説得力を付与してくれる武器になると考えました。

### アビタス教材のクオリティーに感心

U.S.CPAを取得できたのは、アビタスの教材【テキストとMCカード(カード式問題集)】のクオリティーの高さがあったからです。講師、スタッフの方の親身なサポートも素晴らしいと感じ、CISA®でもアビタスを選びました。

### 社内外の信用がアップ

CISA®の試験範囲を通じ、自分の知識、経験から漏れていた「穴」を網羅的かつ効率的に埋めることができました。名刺に「公認情報システム監査人」と書くことでクライアントの信用が大きくアップしたと思います。社内も同様です。上司から「スゲーな、お前」と褒められたときは鼻が高かったです。キャリア選択の幅も広がります。私は51歳になりますが、定期的にハイポジションへのヘッドハンティングを受けています。

### MCカード(カード式問題集)が最高のテキスト

記憶が定着しているかを確認するにはMCカードしかありません。MCの回答欄に「選択肢aは誤り。なぜならば・・・よって正答はd。」などと簡潔な解説がついているので、MCこそ私にとって最高のテキストでした。通勤時間と昼休みを利用して平日は3時間程度、休日は頑張って8時間ほど学習しました。MCを20周くらいこなし、4か月で合格できました。



米国系  
総合コンサルティングファーム  
笹原 大志さん

## 短期合格のカギはテキストと問題集、そして講師陣でした

### 所属部門で必要性の高い資格

私は現在、企業に対する不正調査、ITを含む内部統制構築支援、データ復元などをサービスとするフォレンジック部門に所属しており、CISA®はグループにとっても、また自分自身にとっても非常に必要性の高い資格でした。また、公官庁の入札条件をクリアするためにも本資格の取得を決意しました。

### 要点がまとまったテキスト

自身のバックグラウンドがITであり、また勤務先も監査法人系であることから、学習内容を理解することはあまり困難には感じませんでしたが、過去問題の日本語訳がほぼ直訳のため慣れるために時間がかかりました。ISACA®のレビューマニュアルは量が膨大な上、直訳の日本語で書かれているので私にはわかりづらく、その点ではアビタスのテキストは要点がまとめられていて学習しやすかったです。

### 毎週少しずつ学習

通信生として登録しましたが、できる限り通学コースの講義に出席し、「その日のうちにMCカードで復習」→「間違えた箇所についてテキストで見直し」→「MCカードで再度復習」という学習を繰り返しました。問題量も多いため、溜めて一気に学習することは避け、毎週少しずつでも学習することを心がけました。また、テスト1か月前からは、MCカードと模擬テスト問題(Webプラクティス)を計りながら繰り返し解き、時間の感覚を確認するようにしました。

### 短期間で合格

短期間で合格できたのは、要領よくまとめられたテキストと問題集、あとはテキストに載っていないポイントも講義していただける講師陣のおかげだと思っています。今後はこの資格を実務に活かし、さらに質の高いサービスを提供していきたいと思っています。



大手監査法人  
グループ会社 勤務  
フォレンジックグループ

宮内 祐佳さん

# CISA<sup>®</sup> 試験について

## ■ 試験内容と合格基準

CISA<sup>®</sup>試験は、最新のCISA<sup>®</sup>業務分析から生み出された、5つの実務領域(ドメイン)に関する150問の4択問題で構成されています。下記のドメインと割合は、試験に出る質問の重要度を示します。なお、本試験ではドメイン順ではなく、ランダムに出題されます。

### 試験内容

	主題内容	割合	出題形式	問題数	試験時間
ドメイン1	情報システム監査のプロセス	18%	4 択	150問	4時間
ドメイン2	ITガバナンスとITマネジメント	18%			
ドメイン3	情報システムの調達、開発、導入	12%			
ドメイン4	情報システムの運用とビジネスレジリエンス	26%			
ドメイン5	情報資産の保護	26%			

### 合格基準

CISA<sup>®</sup>試験の得点は、200～800ポイントのスケールド・スコアに換算され、450ポイント以上で合格となります。

## ■ 試験制度

### コンピュータ試験(Computer-based Testing:CBT)

PSIテストセンター(東京、大阪など)のコンピュータで解答します。自由度が高く、多忙なビジネスパーソンでも受験に取り組みやすくなっています。また、世界中で日本語による受験が可能です。

自宅でも受験できます。

### 試験日程

テストセンターの空きがあれば、1年中いつでも受験できます。ISACA<sup>®</sup> Webサイトから申し込み後、1年以内に受験します。その1年以内であれば、予約した日程の48時間前までに、無料で試験日程のリスケジュールが可能です。

不合格になった場合、再受験は初回受験から30日以上あける必要があります(再受験2回目以降は前回の受験から90日後)。

※再受験は1年以内に3回までとなっています。  
(再受験ごとに、出願手続きは必要です)

### 受験申込

ISACA<sup>®</sup> Webサイトからオンラインで申し込み手続きが可能です(英語のサイトになりますが、受講生の皆さまには日本語手続きマニュアルをご用意しております)。

### 受験資格

18歳以上であればどなたでも受験可能です。

学歴、実務経験などの要件はありません。

### 結果通知

受験したコンピューター画面上で、試験終了時に仮結果が表示されます。その後、本結果がメールで通知されます。

### 受験料

ISACA <sup>®</sup> 会員	ISACA <sup>®</sup> 非会員
U.S.\$ 575	U.S.\$ 760

※アビタス受講生は、アビタス経由の割安価格で申し込むことができます(バウチャー制度)。詳しくはスタッフまでお尋ねください。

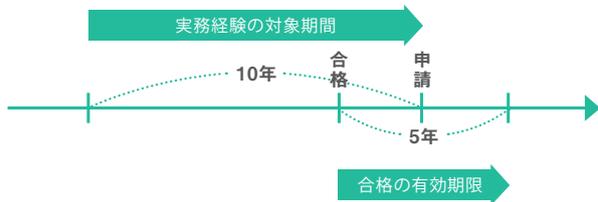
※表示価格は2025年2月時点のもので、受験料は変動します。  
必ずISACA<sup>®</sup> Webサイトでご確認ください。

## ■ CISA® 認定

CISA®と認定されるには、最低5年間の情報システム監査、コントロール、保証あるいはセキュリティ分野での実務経験を証明する必要があります(実務経験の詳細は次ページをご覧ください)。

これらの実務経験は、認定申請日からさかのぼって10年以内の経験に限ります。

合格の有効期限は5年間です。それまでに認定要件を満たさない場合は、失効してしまいますのでご注意ください。



以下の要件を満たすことで、実務経験に代替することができます(最大3年まで)。

5年の実務経験要件を満たしていない場合、下記の要件で最大3年間の実務経験の免除の適用が可能です。

### ■ 一般職務経験免除

最大1年間の免除申請が可能

- ・一般監査
- ・一般情報システム

### ■ 教育経験免除

教育経験に応じ以下の年数の免除申請が可能

1年間免除	準学士号
2年間免除	学士号、修士号、博士号(分野問わず)、CIMA(英国公認管理会計士教育機関)フル認定、ACCA(英国勅許公認会計士)会員
3年間免除	情報システムまたは関連分野の修士号

## ■ 認定を維持する継続教育

CISA®認定を維持するには、所定時間以上の継続教育(CPE)が必要です。講義や研修などを受ける場合、1CPEは50分で、認定された翌年から1年で少なくとも20CPE、3年で120CPEを受講しなくてはなりません。またCISA®維持手数料(ISACA®会員:\$45、非会員:\$85)の納入も必要です。

### ■ ISACA® 入会費用(2023年10月時点)

国際会費	\$ 145
支部費	東京 : \$ 30 大阪 : \$ 50 名古屋 : \$ 60 福岡 : 無料

20X1年	20X2年	20X3年	20X4年
	← 20CPE以上 →	← 20CPE以上 →	← 20CPE以上 →
資格認定	← 3年間で120CPE以上 →		

上記の要件を満たせない場合、CISA®認定および合格実績が取り消されますのでご注意ください。

継続教育義務を満たすことが困難になった場合は、休眠制度を利用すると、継続教育義務が免除されます。詳細はP19のQ&Aをご覧ください。

■ 実務経験の証明方法

実務経験の証明は、実務経験証明書をPDFに記入してアップロードするか、オンライン上でフォームに入力して提出するか、選択が可能です。該当するドメインにチェックを入れ、業務内容を把握している上司の承認を受ければ、完了です。申請をしてから、約8週間後に認定を受け、更に約4週間後に認定証がお手元に届きます。実務経験証明書は、日本語で作成いただけます。

※実務経験の申請にあたり、\$50が必要になります。

## CISA 実務経験証明書

### 2019年6月以降の CISA 試験に合格した申請者

電子的にこの申請書を記入する場合、アドビリーダーを使用してください。

**実務ドメインの記入方法**

申請者は対象となるドメインのすべてあるいは一部の業務を完了したことを確認し、証明者の確認を得る必要があります。

**ドメイン1：情報システム監査のプロセス**

<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 情報システムが保護・管理され、組織に価値をもたらしているかを判断するため、監査を計画する。</li> <li>▪ 情報システム監査基準およびリスクベースの情報システム監査戦略に従い、監査を実施する。</li> <li>▪ 監査の進捗、発見事項、結果および提案を関係者に連絡する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 監査のフォローアップを行い、リスクへの対策が十分であるかを評価する。</li> <li>▪ データ分析ツールを活用し、監査プロセスを効率化する。</li> <li>▪ 情報システムの品質と統制を改善するため、組織にコンサルティングサービスおよびガイダンスを提供する。</li> </ul>
---	---

**ドメイン2：ITガバナンスとITマネジメント**

<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 組織の戦略および目的と足並みをそろえてIT戦略を評価する。</li> <li>▪ ITガバナンス構造およびIT組織構造の有効性を評価する。</li> <li>▪ 組織のITポリシーおよび実践手法の管理を評価する。</li> <li>▪ 組織のITポリシーおよび実践手法が規制要件や法的要件に準拠しているかを評価する。</li> <li>▪ 組織の戦略および目的と足並みをそろえてITリソースおよびポートフォリオ管理を評価する。</li> <li>▪ 組織のリスク管理ポリシーおよび実践手法を評価する。</li> <li>▪ ITマネジメントおよびコントロールのモニタリング体制を評価する。</li> <li>▪ IT部門の重要目標に対する重要業績評価指標（KPI）を評価する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ ITサプライヤの選別および管理プロセスがビジネス要件に準拠しているかを評価する。</li> <li>▪ 組織のITポリシーおよび実践手法において、プロセスを改善する機会を識別すること。</li> <li>▪ 新しいテクノロジー、規制、業界の実践手法に関連する潜在的な機会と脅威を評価する。</li> <li>▪ 情報システムおよびエンタープライズアーキテクチャの定期レビューを実施する。</li> <li>▪ 情報セキュリティプログラムを評価し、その有効性及び組織の戦略および目標との整合性を検証する。</li> <li>▪ ITサービスの管理実践手法がビジネス要件に準拠しているかを評価する。</li> </ul>
--	---

**ドメイン3：情報システムの調達、開発、導入**

<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 情報システムに対して提案した、変更のビジネスケースが、ビジネス目標を満たしているかを評価する。</li> <li>▪ 組織のプロジェクト管理ポリシー、および実践手法を評価する。</li> <li>▪ 情報システム開発ライフサイクルのあらゆる段階でのコントロールを評価する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 情報システムの導入、および本番環境への移行の準備状況进行评估する。</li> <li>▪ システムの導入事後評価を実施し、プロジェクトの成果物、コントロール、要件が満たされているかを判定する。</li> </ul>
--	--

**ドメイン4：情報システムの運用とビジネスレジリエンス**

<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ IT運営を評価し、それが効率的に管理され、組織の目標を支援し続けているかを判定する。</li> <li>▪ IT保守の実践手法を評価し、それが効率的に管理され、組織の目標を支援し続けているかを判定する。</li> <li>▪ データベース管理実践手法を評価する。</li> <li>▪ データガバナンスのポリシーと実践手法を評価する。</li> <li>▪ 問題/インシデント管理のポリシーおよび実践手法を評価する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 変更、構成、リリース、パッチ管理ポリシーおよび実践手法を評価する。</li> <li>▪ エンドユーザーコンピューティングを評価し、プロセスが効率的にコントロールされているかを判定する。</li> <li>▪ 組織がビジネス運営を継続する能力を評価する。</li> <li>▪ 資産ライフサイクル管理に関連するポリシーおよび実践手法を評価する。</li> </ul>
--	--

**ドメイン5：情報資産の保護**

<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 組織の情報セキュリティおよびプライバシーポリシー/実践手法を評価する。</li> <li>▪ 物理的コントロールと環境コントロールを評価し、情報資産が適切に保護されているかを判定する。</li> <li>▪ 論理的セキュリティコントロールを評価し、情報の機密性、完全性、可用性を検証する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 組織の方針と該当する外部要件に合わせてデータ分類実践手法を評価する。</li> <li>▪ 技術的セキュリティテストを実行し、潜在的な脅威と脆弱性を特定する。</li> <li>▪ 新しいテクノロジー、規制、業界の実践手法に関連する潜在的な機会と脅威を評価する。</li> </ul>
--	---

ページ V-2  
Version: V04-0619

※ISACA®Webサイトから転載

# アビタスの教材とサポート

アビタスCISA®プログラムの特長は、質の高い講義と教材、サポートです。CISA®に精通した講師陣が講義を担当し、要点を解説します。オリジナルテキストは学習項目を細分化した「スモールユニット方式®」を採用し、効率良くマスターできるよう構成しています。問題演習コンテンツも豊富にご用意しており、最短5カ月、250時間での合格を可能にします。受験手続きサポートをはじめ、学習に専念していただけるサポートも万全です。

## ISACA®公認カリキュラム

ISACA®本部は、CISA®資格教育のクオリティ確保を目的とし、教育機関や指導者などの認定制度を2018年にスタートしました。アビタスは、日本での民間教育機関の第1号として認定を取得しています。

### ドメイン1

#### 情報システム監査のプロセス(18%)

情報システム監査における監査計画、監査の実施、結果の評価および報告に至る一連の流れの主要なプロセスについて理解します。その中で、監査人が利用するサンプリングおよびコンピュータ支援監査技法(CAATs)等の監査ツールを扱います。また、ISACA®の「情報システム監査基準」及び、COBIT®に代表される情報システムにおける内部統制のフレームワークの基礎的な概念も学習します。

### ドメイン2

#### ITガバナンスとITマネジメント(18%)

ITガバナンスとは、組織体の経営戦略と情報技術戦略を整合させることを保証するため組織体のITに関する体制を管理し、コントロールする活動をいいます。組織体における情報システム戦略策定の要素、リスク分析方法、職務分離のあり方、さらに事業継続計画(BCP)に関連する諸概念について詳しく学習します。

### ドメイン3

#### 情報システムの調達、開発、導入(12%)

電子メールや電子商取引(E-Commerce)に代表される業務アプリケーション・システムに関する知識、及び一連のシステム開発プロセスについて詳しく学習します。その中で、業務アプリケーション・システムの開発、購入、導入、保守の各段階における情報システム監査人の役割について理解します。また、アプリケーション・システムにおける入力、処理、および出力のコントロールを総称したアプリケーション・コントロールの詳細についても学習します。

### ドメイン4

#### 情報システムの運用とビジネスレジリエンス(26%)

情報システムを構成するハードウェア、ソフトウェア、データベース及びネットワークの詳細な知識と、それらのインフラストラクチャーに対する監査方法を学習するとともに、ITに係る災害復旧計画に関する諸概念について学習します。

### ドメイン5

#### 情報資産の保護(26%)

不正なアクセスやコンピュータ・ウイルスなどから組織の情報資産を保護するための情報セキュリティについて扱います。IDやパスワード、生体認証などのアクセス統制、ファイアウォールに代表されるネットワーク上のセキュリティ管理について詳しく学習するとともに情報セキュリティに対する監査についても学習します。

## リンクする学習ツールを使い最短250時間で合格



### 1 「わかりやすさ」に重点をおいた講義

全てのCISA®講師はシステム監査に精通しています。同一のカリキュラムとスライドに基づき講義を行っているため、eラーニングとZoom配信講義で講義内容が異なることはありません。「合格」に的を絞った講義を行っているか、受講生による評価も毎学期実施して講師にフィードバックしており、講義の質の管理を徹底しています。

## 2 スモールユニット方式®

アビタスの教材は学習項目を細分化した「スモールユニット方式®」です。eラーニングの各ユニットの平均講義時間は8分です。視聴後に、ユニットの関連問題を解き(平均7問で7分)、解説を参照すれば(平均7問で14分)、1ユニット平均29分で完結。スキマ時間を使った学習の積み重ねが可能です。

タブレットやスマートフォンでも視聴できます。

eラーニング講義とZOOMライブ配信講義の内容は同じです。

講義視聴	平均8分
問題演習	平均7問 7分
問題解説	平均7問 14分

### 1ユニット

(講義視聴+問題演習+問題解説)

平均**29分**

eラーニング画面 (講義動画をPC・タブレット・スマートフォンで視聴可能(2年間))

**講義画面**

Abitus CISA® 1A-06 : 監査リスクの3つの要素

1ユニットが1画面で完結

ユニットごとに関連問題が表示される

CISA® 1A-06

1A-06 ユニット情報

お知らせはありません。

視聴時間  
講義 : 約11分  
MC×4 : 約0分  
**約11分**

テキスト: P.26-27

MC問題

1A-06-01 : 演習

1A-06-02 : 演習

1A-06-03 : 演習

1A-06-04 : 演習

学習ツール

講義スケジュール

電子テキスト

問題演習

問題解説

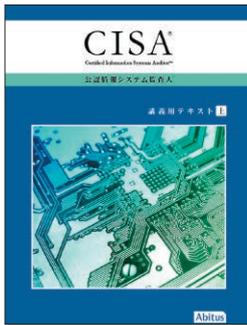
最大2倍速まで対応

対応する問題にすぐアクセスしてオンライン上で演習が可能

※ドメインごとに代表問題を取り上げ動画で解説しています。

テキスト・電子テキスト

豊富な図解を交えて解説するオリジナルテキストは、複雑なコンセプトも一目で理解できるように編集しています。



MC問題 5C-01-01

### 5C-1 ファイアウォール(1) 概要

ここでは、ファイアウォールの概要と種類、構成について扱う。それぞれの特徴や利点について詳しく解説する。

**Point** ファイアウォール

ファイアウォールは、組織体内部のネットワークと外部のネットワークの間に設置され、組織体内部のネットワークを外部から保護するためのセキュリティシステムである。その種類と構成には、以下がある。

b) 種類	1) パケットフィルタリング型
	2) アプリケーションゲートウェイ型
	3) その他
c) 構成	1) 公開サーバーをインターネット側セグメントに接続した構成
	2) 公開サーバーを内部ネットワークに接続した構成
	3) 非武装地帯 (Demilitarized Zone; DMZ)

a) ファイアウォールの概要

1) ファイアウォールは、ルータ、サーバー等様々なソフトウェアを使用した、ハードウェアとソフトウェアの組合せであり、組織体のセキュリティ方針によって単純な構成にも複雑な構成にも構築することが可能である。ファイアウォールの種類は様々であるが、一般には次のような機能を可能とする。

ユニット番号でテキストと問題集を紐づけ

用語解説

- DMZ**  
スクリーン(ド)・サブネット・ファイアウォール (screened subnet firewall) と呼ぶこともある。
- パーソナルファイアウォール**  
1台1台のPCに搭載して利用するファイアウォール。ハッキングに対して有効なコントロールとなる。

図解



**メモ機能**  
テキスト形式で補足文を入力

**色分け機能**  
直線や色分けで重要部分をハイライトできる

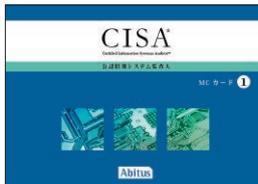
時間と場所に縛られることなく学習を進めていただけるように、テキストを電子化しました。インターネットブラウザ上でいつでもご利用いただけます。電子テキストには、メモや単語検索といった学習をサポートする機能が満載で、学習機会を逃しません。

※端末はご自身でご用意ください。  
※電子テキストはオプションです。

- テキストがインターネット上で見られる
- メモや書き込みを端末間で同期
- 機内などオフライン環境下でも利用可能 ※専用アプリをダウンロードしたiOS、Android端末のみ
- 網羅的・高速なテキスト検索機能で、専門用語を全テキストの範囲で一度に検索可能

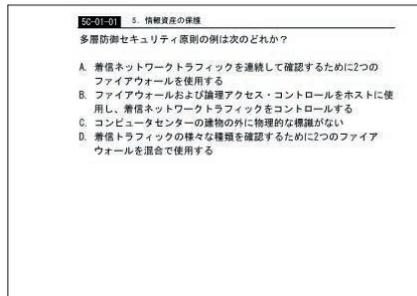
## MCカード

MCカードはISACA®が発行する「CISA®試験サンプル問題&解答・解説集」を全て収めたカード型問題集です。A6サイズの問題集は持ち運びに便利であり、通勤時間などスキマ時間を有効に活用して演習できます。MCカードの問題配列はテキストの「論点」の順番と一致しているため、復習の際に問題を探す手間が省けます。

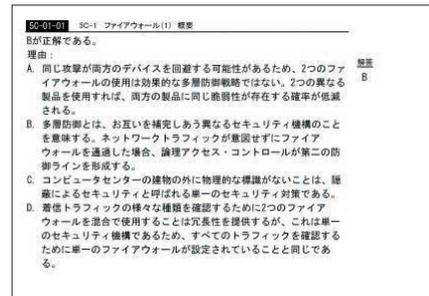


ユニット番号でテキストと問題集を紐づけ

### 【表面】



### 【裏面】



## Webプラクティス

Webプラクティスでは、MCカードの問題をインターネットでいつでも演習できます。CISA®試験の問題はドメインとは無関係にランダムに配列されていますが、Webプラクティスには問題をシャッフルする機能があり、制限時間を設けることができるので、本試験により近い環境で実践的トレーニングが可能です。

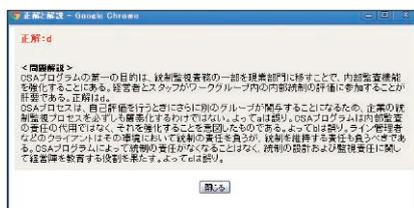


### 【演習設定画面】

MCカードの問題番号順に、あるいはランダムに演習できます。リトライ問題を選択することで、過去の演習で間違えた問題のみを抽出することができます。また、本試験と同様の割合で全5章から150問抜粋した試験モードを2パターンご用意しており、模擬試験代わりに活用いただけます。

### 【演習画面】

MCカードの問題を解きます。



### 【採点結果画面】

正答率および各問題の正誤が一覧で表示されます。

### 【問題・正解・解説画面】

「問題と解説」をクリックすることで、問題・正解・解説を確認できます。

### 3 万全のサポート

#### 安心の2年間受講サポート体制

一時的に学習の中断を余儀なくされた方でも合格を目指せるように、2年間の受講サポート体制を用意しています。いずれのコースも、学習に関する質問・回答サービス、受験手続きサポートを2年間無料で受けられます。

	通信コース (自習室利用可)	通信限定コース
Zoomライブ配信講義 (アーカイブ動画含)	○	○
eラーニング講義	○	○
質問回答、受験手続などの 各種サポート	○	○
自習室	○	×

#### column

#### コース選びに迷ったら

##### 無料説明会

CISA<sup>®</sup>試験や当校プログラムについて詳しく知りたい方のための、無料説明会を開催しています。  
CISA<sup>®</sup>プログラム受講をご検討中の方は、お気軽にご参加ください。

##### 無料カウンセリング

皆さまの疑問に専任アドバイザーが丁寧にお答えします。

- テキストや問題集を見たい
- 学習プログラムの特徴についてもっと知りたい
- 学習計画や勉強時間について相談したい
- 申し込み方法やローンについて確認したい

##### 無料体験講義

学習を開始する上で、やはり講義の雰囲気やクオリティは気になるものです。当校では、定期的に無料体験講義を開催しています。まずは実際の講義をご体験ください。

## 学習サポート体制

### 学習中

#### ■ 学習に関する質問回答サービス

受講生マイページより、学習内容の不明点を質問できます。講師がわかりやすくスピーディーに回答します。

※ご質問はお一人につき週3件まで回答をさせていただき、4件目以降は翌週受付分として回答させていただきます。

#### ■ 受験手続きサポート

CISA®試験の手続きは英語ベースで行う必要がありますが、日本語のマニュアルを完備しています。

ご不明点については、スタッフが丁寧にご案内いたします。英語が苦手でも、ご安心して進めることができます。

#### ■ ISACA®教材 最新版リリース時のサポート

最新版がリリースされた場合、変更箇所に関する情報を無料で提供いたします。



### 合格後

#### ■ 資格認定手続きサポート

受験手続き同様、資格認定手続きのサポートも行っています。提出書類である、資格認定申請書・実務経験証明書は、日本語で作成することができます。

#### ■ AEC (Abitus Expert Community)

アビタス受講生全員が、個のビジネスパーソンとして集えるコミュニティに参加できます。

財務会計、内部監査、FASといった分科会があり、各業界についての情報交換やミーティングを通じて、学びの意欲を活性化、継続できます。



# 申し込みについて

## ■ お申し込み方法

Webでお申し込みいただけます。

下記よりご希望のコース・オプションをご入力ください。



または cisa@abitus.co.jp までご希望のコースをお知らせください。

当校スタッフからメールで申し込み用URLをご案内いたします。

※ 顔写真、身分証明書のご提出

受講開始後、受講生マイページ内にて「顔写真」「写真付き身分証明書」の画像データをご提出ください。原本のご郵送等は不要です。ご提出方法の詳細は 受講開始後のメールにてご案内いたします。

## ■ お支払い方法

### 銀行振込

下記銀行口座までお振り込みください。

三菱UFJ銀行 新宿中央支店 普通 3823344 株式会社アビタス

### クレジットカード(Web)

ご利用可能なカード会社はVISA・MasterCard・JCB・アメリカンエクスプレス・ダイナースの5社です。



◆ 選択可能なカード支払い回数  
(ご利用のクレジットカード会社により異なります)

1回・3回・5回・6回・10回・12回・15回・18回・24回・リボ払い

### 受講料のお見積もり

■ アビタスよりメールにてお見積もりのご案内を差し上げます。メールに添付されているURLをクリックしてください。

### 見積もり内容のご確認

■ サイト上のお見積もり画面で内容を確認、個人情報を入力の上、クレジットカード決済の手続きを進めてください。  
■ 「申込規約」に同意いただく必要があります。

### カード決済の受付完了

■ メールにてお手続き完了のお知らせが届きます。

### 受講開始

■ 教材の発送を行います。なお、現金払いとの併用がある場合は、現金のお支払い後になります。

### ローンによる月々分割払い(Web)

月々の分割払いを低金利でご利用いただけます。ボーナス併用払いも可能。

お手続き後、通常即日～2日程度でローン審査完了。可決後すぐに学習をスタートしていただけます。

(Webサイト上でお支払いのシミュレーションサイトもご用意しております。)

分割回数：3～60回。

## ご請求書発行について

ご請求書発行をご希望の方は、PDFファイルで発行可能ですので個別にご相談ください。

# よくあるご質問

## ■ 試験について

**Q.** 受験の手続き方法を教えてください。

**A.** ISACAのHP上で英語で手続きを行う必要がありますが、受講生の方には日本語での手続きマニュアルをご用意しています)

## ■ 学習について

**Q.** 監査に携わっていますが、ITバックグラウンドではないため、学習するのが不安です。

**A.** 内部監査従事者で、システム監査の重要性を感じながら、自身のIT知識に不安をもちいらっしゃる方で、受講される方が多数を占めます。そのため、そういった方にも理解できる様な講義を行っております。また、CISA試験でIT・IT技術自体を問われることは、基本的にはありません。

**Q.** IT業務に従事していて、監査に携わっていない場合に、CISAを取得する意義はありますか？

**A.** CISAを取得することにより、リスクの観点から、情報システム業務を再構築することができます。また、社内における情報システムの位置づけや重要性をきちんと認識できるので、情報システム業務自体のレベルアップが、図れます。

## ■ 資格認定について

**Q.** 継続教育(CPE)の要件をどのように満たせばよいですか？

**A.** 研修会・セミナー・コンベンションの参加や、講義を受けてCPEを獲得する場合が一般的ですが、この場合は50分で1CPEとなります。  
ISACA®の個人会員になると、月例会や有料・無料の研修会・講習会に参加する等、様々なCPE獲得手段が付与されるので、ISACA®の個人会員になることは、お勧めです。また、アビタスでもCPE対象となる、実務家向けの講座をご用意しています。

**Q.** 継続教育義務を満たし続けられるか不安です。

**A.** 継続教育義務を満たし続けるのが難しい状況になった場合、休眠制度を利用して、Non-Practicing Statusの申請をすることで、継続教育義務が免除されます。CISA管理手数料を支払い続ける限りは無期限でNon-Practicing Statusを維持できますが、この間、CISAの称号は使用できません。

<https://www.abitus.co.jp/cisa/>

## ■新宿本校

〒151-0053

東京都渋谷区代々木2-1-1 新宿メインズタワー15階

TEL : 03-3299-3330

FAX : 03-3299-3777

JR「新宿駅」南口徒歩5分・JR「新宿駅」甲州街道改札徒歩5分  
都営地下鉄新宿線・大江戸線、京王新線「新宿駅」A1出口直結

【営業時間】 平日 11:00 - 20:00  
土日祝 10:00 - 20:00

【定休日】 木曜日



## ■大阪校

〒530-0017

大阪府大阪市北区角田町8-1

大阪梅田ツインタワーズ・ノース21階

TEL : 06-6365-8660

FAX : 06-6365-8661

JR「大阪駅」御堂筋南口徒歩4分  
阪急「梅田駅」徒歩3分、地下鉄御堂筋線「梅田駅」徒歩2分

【営業時間】 平日 11:00 - 20:00  
土日祝 10:00 - 20:00

【定休日】 木曜日



新宿本校 **03-3299-3330**

大阪校 **06-6365-8660**

受講相談専用メールアドレス

[cisa@abitus.co.jp](mailto:cisa@abitus.co.jp)